

授業科目名・形態	老年看護学福祉実習 実習	必修・選択の別	必修	単位数	2
科目担当者氏名	檜原登志子・黒澤繭子・石川セツ子・工藤智美	実務経験の有無	有	開講期	3年前期・後期

【授業の主題】

介護老人福祉施設で生活する高齢者の日常生活援助を通じて、高齢者の身体的・心理的・霊的・社会的特徴についての理解を深める。又、新型特別養護老人ホームで個別化・ユニットケアを学ぶ。介護老人保健施設では、特殊性である（介護保険法上の入所サービスを含む）軽度医療・看護の管理を必要として、介護保険法上のリハビリテーションを受ける高齢者の理解が出来る。多様な施設を利用する高齢者の健康課題や福祉の観点からのニーズを把握し、個性の尊重、自立支援、QOLの向上を目指した生活援助、高齢者の尊厳に配慮した援助を実践する。また、高齢者に関する専門職の役割と連携の必要性や、看護の役割について理解する。併せて、施設が提供するショートステイ(地域包括ケア)利用者の実習を通して看護と介護の連携の実践も学ぶ。高齢者終末期看護・介護の「施設の看取りケア」を学ぶ。

【到達目標】

1. 施設利用の高齢者を取り巻く環境（介護保険制度の施設特徴・多職種（介護職）の業務・生活環境）を理解する。
2. 老化（セネッセンス）に伴う身体的・心理的・霊的・社会的変化の特徴を理解し、生活機能のアセスメントができ、施設ケアプランを理解し、日常生活を送る上での困難さを理解する。
3. 日常生活上の困難状況に合わせて残存機能を生かした、科学的根拠ある援助の重要性を理解する。
4. 予測的・予防的看護の必要性を理解し、自立した生活を目指した援助、見守ることの大切さやQOLを考えた援助方法を理解する。
5. 高齢者の適応力低下による高齢者リスクを防ぐ為の安全性の配慮と事故防止の重要性を理解する。
6. 高齢者施設・病院の医療関連感染（HAI）について理解できる。
7. 日常生活を支える各職種間や関連各機関とのコラボレーションの機能と重要性を理解する。
8. 高齢者とのかかわりを多く持ち、アセスメントのプロセスから看護者に求められる支援を考えることが出来る。
9. 高齢者の終末期看護として「施設の看取りケア」を学ぶ。

【授業計画・内容】

実習の詳細は「令和4年度 老年看護学福祉実習要項」に基づく。施設別の週案の学習目標に基づく。

【授業実施方法】

臨地実習を行う。帰学日と学内まとめ日で学修する。「令和3年度老年看護学福祉実習要項」を指導計画としている。

【授業準備】

既習の知識以外にも活用し柔軟に対応し学びを深めて下さい。又、安全・安楽な援助を行うために、看護技術の復習を行い、自信をもって援助できるように繰り返し練習して下さい。高齢者の立場に立ち、対応できる態度を持ちましょう。

【主な関連する科目】

「老年看護学概論」「エイジング論」「老年看護学方法論Ⅰ」「老年看護学方法論Ⅱ」「病態治療学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ（精神科）」「保健・医療と法律」

【教科書等】

系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学 第9版, 医学書院, 2018
 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護 病態・疾患論 第5版, 医学書院, 2018

【参考文献】

必要時、実習内で提示する

【成績評価方法】

実習状況、・実習記録（事前・事後学習を含む）85%、実習態度5%、終了後の課題10%、による総合評価とする。

【実務経験及び実務を活かした授業内容】

総合病院第3次救急、大学病院の教育研究の場で、看護師、主任、師長の実務経験や認知症専門士から、ケアを受ける人の生命安全第一、尊厳を持ち接し、安心と安楽な生活を支援できるケア者となるための学習支援をいたします。

【学生へのメッセージ】

高齢者の言葉や心の中に関心を寄せて、高齢者の安寧のためのケアを考えていきましょう。事前学習を行い、施設の多くの職種のケア者から学ぶ姿勢を持つことは、福祉施設で学ぶ看護技術・介護技術の学習の力に代えられます。